

25
years
2001 - 2026



ドナルド・
マクドナルド・
ハウス
せたがや

せたがやハウス25周年募金委員会 募金趣意書

募金期間：2025年10月～2026年8月（予定）
目標金額：5,000万円

25年の感謝を込めて これからもずっと変わらぬ“第二の我が家”を



「せたがやハウス」は子どもの治療に付き添うご家族のための滞在施設です

ご挨拶

皆さまにおかれましては、平素より一方ならぬご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2001年の開設以来、「ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや（以下、せたがやハウス）」は、皆さまのご寄付やご支援、ボランティアの方々のご協力で今日まで運営してまいりました。

そして来る2026年12月に、開設25周年を迎えます。

「せたがやハウス」に隣接する国立成育医療研究センターは、お子様をはじめ、妊産婦の重症疾患や希少疾患などの治療・研究を専門とする国内最大級の施設です。国内はもちろん、さまざまな国と地域から患児さんが訪れます。

ご自宅を遠く離れ、長期の入院や治療に寄り添うご家族の経済的・肉体的・精神的な負担は図りしえません。そのため1日1,000円という利用料で、病院の隣で「わが家」と同じように生活できる「せたがやハウス」は、ご家族にとって大きな助けであり、頼もしい存在であると思います。また、医療従事者にとっても、ご家族が常時近くにいて緊密に連携を取れることは大きなメリットです。ただ、残念ながら「せたがやハウス」の部屋数には限りがあります。

昨年（2024年）は1年間で約1,100家族から利用申込みがありました。うち約120家族は満室のためお断りせざるを得ませんでした。今回の募金では、現在の23室から3室増やし、全26室にすることを目的のひとつにしています。これにより年間約100家族を新たに受け入れることが可能になります。

また、外壁等の経年劣化も修復し、ハウスの快適性と安全性も高めていく予定です。

「せたがやハウス」と国立成育医療研究センターはチームとして、今後も患児とご家族を支えていきます。

皆さまには本募金の趣旨をお汲み取りいただき、ぜひご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年10月



笠原 群生

せたがやハウス 25周年募金委員会 委員長
国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 病院長

「ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや」の募金委員会設置にあたりご挨拶申し上げます。「せたがやハウス」は、2001年に国内第1号として開設され来年で25周年という節目を迎えようとしています。この間、困難な病気に対し向き合う子どもたちとそのご家族の支援にご尽力されていますことに深く感謝を申し上げます。この度、「せたがやハウス」の増室と大規模改修を行うために募金委員会を設置し、寄付を募ることですが、私もメンバーの一員として委員会に加わり協力させていただることといたしました。この場があることがどれだけ貴重であるのかを多くの人に知ってほしいと思っています。

少子高齢社会を迎える今、安心して子どもを育てられる環境づくりや、生きがい・やりがいの創出に向けたボランティアの普及啓発、小児医療を地域で支える仕組みづくりについて区としても支援を行ってまいりたいと考えております。今後も「せたがやハウス」が地域に根差し、ますますご発展することを祈念いたしまして、私の応援のご挨拶とさせていただきます。

2025年10月



保坂 展人

せたがやハウス 25周年募金委員会 委員
世田谷区長

ドナルド・マクドナルド・ハウスとは？

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、自宅から遠方の病院に入院・通院している子どもと、その付き添いご家族が利用できる滞在施設です。お子さんが重い病気になった場合、大学病院など設備・スタッフの揃った遠方の病院で治療を受けること多く、付き添うご家族は、自宅と入院先との二重生活による経済的な負担、食事や睡眠環境などの肉体的な負担、家族が離れて暮らす精神的負担など、大きな負担に悩まされることになります。ドナルド・マクドナルド・ハウスは、このようなご家族をサポートするために1974年、アメリカ・フィラデルフィアで誕生しました。ハウスのコンセプトは「Home-away-from-home」わが家のようにくつろげる第二の家。

世界各国にあるすべてのハウスが、このコンセプトのもと運営されており、ご家族は病院のすぐ隣で生活しながら、子どもの病室へ通うことができます。2025年10月現在、全世界では約390ヶ所、日本国内では12ヶ所のハウスが開設されており、多くの方からのご寄付・募金やボランティアの支援によって運営されています。

<https://www.dmhcj.or.jp/>



世界第1号のドナルド・マクドナルド・ハウス(アメリカ・ペンシルベニア州 フィラデルフィア)

Message

この度、「ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや」の25周年
募金委員会の委員に就任いたしました。

これまでハウスおよび連携病院を訪問させていただく中で、
ハウスが多くのご家族にとって大切な“第二のわが家”である
ことを実感してきました。

日本第一号である「せたがやハウス」は、僕自身の地元世田
谷にあり、初めて訪問したハウスとして、とても思い入れのある
場所です。

国立成育医療研究センターに入院しているお子さんたちと、
そのご家族が少しでも安心して過ごせるように。そんな願いが
つまつたこのハウスが、これからも変わらず、温かい場所であり
続けてほしいと心から思っています。

開設25周年という節目を迎え、建物にもさまざまな修繕が
必要となっています。この募金活動が、次の世代へパスをつなぐ
大きな一步になると信じています。

皆さまの温かいご支援を、どうぞよろしくお願ひいたします。

権田 修一さん

プロサッカー選手
(ヴィッセル神戸)
Team DMHC アンバサダー



ALOHA !! KONISHIKIです。

僕は2001年12月の開所式に出席させてもらいました。その
時の事を今でもよく覚えてます。その後もKidsのイベントなど
で関わらせてもらいました。

今回大規模修繕をされると聞いてどうしても応援したくてコ
メントさせてもらいました。病気で闘っている子どもたちやその
家族のために、1人でも多くの方の力が必要になります。

僕は子どもが大好き！

イベントや近所でも子どもを見かけると声をかけるんだ。子
どもと触れ合うと元気になるしhappyになるからね。そんな力
ワイルド子どもたちの苦しんでる顔を見るのが本当に辛い。病気
で苦しんでる子たちが素晴らしい医療を受けるように、その
ご家族たちをサポートできるように、「せたがやハウス」の大規模
修繕をみんなで応援しよう!!

KONISHIKIさん

元大相撲力士
タレント
アーティスト
イベントプロデューサー



ご家族コメント

Comment



加藤さんご家族 (和歌山県)

私にとっての「ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや」は、娘・希帆乃のそばにいられる、心のよりどころでした。

昼間は病院で希帆乃のそばにいて、夜だけハウスへ戻る。そんな毎日の内で、家族で過ごせるのは、夫と長女・希乃羽が東京に来てくれる月に一度あるかないかの時間でした。

不安や孤独を抱えながら病院に通う日々。それでも「せたがやハウス」に帰れば「おかえり」と迎えてくれる灯りがともり、言葉にできないやさしさに包まれました。そのあたたかさがあったから、翌日も病院へ向かう力を持つことができました。

「せたがやハウス」は、私にとって“ただの宿泊先”ではなく、心から安心できる、もうひとつの「居場所」でした。

Comment



村木さんご家族 (台湾)

生後間もない娘は、新生児スクリーニングで「先天性代謝異常症」という難病が見つかり、造血幹細胞移植を行うため、国立成育医療研究センターでの長期入院が決まりました。

しかし私たちは台湾在住。付き添いのための宿泊先を悩んでいた時、医師から「せたがやハウス」を紹介してもらいました。娘に何かあればすぐに駆けつけられる近さに居場所があることで、私も安心して付き添うことができました。夜遅くに「せたがやハウス」へ戻る日々が続いた時にも、手作りお弁当の差し入れに、心がほっこり温かくなりました。

また、台湾から3歳の長女と夫が来た時も、家族そろって滞在できました。数日間とはいって、一緒に過ごせたことで長女も寂しさを乗り越えられたと思います。「せたがやハウス」がなければ、私たち家族は東京の病院で治療を受けるという決断ができなかつたかもしれません。

「せたがやハウス」がこれからも変わることなく、病気と向き合う国内外の子どもたちとそのご家族にとって、安心できる支えの場であり続けてほしいと、心から願っています。

Comment



大須賀さんご家族 (千葉県)

当時13歳の長男・はるとは、原因不明の腰痛の末に「肝芽腫」と診断され、地元の病院から国立成育医療研究センターへの転院が決まりました。闘病生活は半年に及ぶと聞き、その間の私の滞在先に悩んでいた時、見つけたのが「せたがやハウス」でした。病院から徒歩5分という近さのおかげで、毎日面会時間いっぱいまで、はるとのそばにいることができました。あの苦しい日々を乗り越えられたのは、ハウスの存在とスタッフの皆さんの温かな支えがあったからです。

週末や長期休暇には家族4人で「せたがやハウス」にお世話になりました。家族みんなで過ごせる時間は、とても大きな楽しみでした。

はるとは無事に移植手術を乗り越え、14歳の誕生日前日に退院することができました。

「せたがやハウス」を利用する方は入れ替わりますが、どの家族も「病気と闘う子どものそばにいたい」「治療を乗り越えて、自宅で家族みんなと暮らしたい」という思いを抱いています。その点で、私たちは今でも利用者の皆さんと、確かな絆でつながっていると感じています。

●● 一時退院や検査の前泊の時にハウスで過ごしました。病院にすぐ行くことができてゆっくり過ごせる場所です。

また、野球をやっていることで声をかけていただき、プロ野球の選手と会わせてもらうこともありました。ハウスのロビーでキャッチボールをしてサインボールをもらって大きな元気をもらいました。ありがとうございました。

これからもよろしくお願ひします

はると

せたがやハウスは2001年12月、日本で第1号のハウスとして誕生し、2026年に25周年を迎える国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）である、国立成育医療研究センターと同様に、せたがやハウスではボランティアの皆さんのが365日活動し、ハウスをより温かなものとしてください。

寄付の使途



「より多くのご家族が、安心安全で快適に過ごすことのできるせたがやハウス」を目的として、建



ます。

じ敷地内にあり、日本各地はもちろんのこと、遠く海外からのご家族も受け入れています。
っています。



物老朽化に伴うメンテナンスと改修を進めています。



キッチン(イメージ)



カウンタースペース(イメージ)

• 3室の増室とユニバーサルルームの設置

3室のうち2室は、車椅子等でも快適にお過ごしいただけるユニバーサルルームを設置します。また、今まで浴室のない部屋もありましたが、すべての部屋に浴室またはシャワールームを設置します。

• 中庭・エントランスの整備

夜間でもハウスまでの道がほんのり明るく照らされ(防犯性の向上)、また四季を感じホッとできるよう、より安心安全に過ごしていただけるよう整備します。

• ご家族に毎日食事を提供するための環境整備

付き添い中のご家族は、ご自身の食事がおろそかになりますが、毎日食事を提供することで、付き添いご家族の健康面や精神面をサポートします。その実現のため、専用キッチンの設置等を行います。

活動報告はこちら

note

募金の状況やイベント情報等を
発信しています。

note.dmhcj.or.jp



せたがやハウスのボランティア紹介

ドナルド・マクドナルド・ハウスの運営になくてはならないボランティアの皆さまの存在。

「せたがやハウス」に個人としてボランティア登録されている方は約200名。朝・昼・夜のシフト制で24時間365日、1日も欠かさず活動してくださっています。そのおかげで、床も水回りも24年経ったとは思えないくらいきれいに磨き上げられ、清潔で居心地の良い空間がいつも保たれています。

これまでボランティアの方々は、各自が「自分ができること」を考え、全員で「せたがやハウス」を作りあげてくださいました。これからもボランティアの方々とともに、ハウスをずっと守り続けていきます。

主な活動内容



ハウスキーピング(お掃除、ベッドメイキング等)



事務(受付、電話応対等)



ナイトボランティア(夜間の見回り)



グリーンボランティア(庭のお手入れ)



ミールボランティア(ご家族へお食事の提供)



その他(イベント等)

ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや 25周年募金委員会名簿

代表 笠原 群生 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 病院長

委員 保坂 展人 世田谷区長

梅澤 明弘 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 研究所長

伊藤 隆一 公益社団法人 日本小児科医会 会長

安藤 秀彦 一般社団法人 世田谷区医師会 会長

池上 晴彦 一般社団法人 玉川医師会 会長

柳橋 礼子 公益社団法人 東京都看護協会 会長

富田 勝司 一般社団法人 世田谷薬剤師会 会長

高野 和則 一般社団法人 玉川砧薬剤師会 会長

三井住友銀行 成城支店 支店長

黒田 康裕 祖師谷南商店街振興組合 代表理事

長島 日出男 砧町会 会長

安藤 茂 大蔵東部町会 会長

神田 康範 株式会社サンロッカーズ 代表取締役社長

櫻井 哲郎 ブルデンシャル生命保険株式会社

新妻 愛 東京すずらんライオンズクラブ 会長

竹内 久雄 株式会社 ドリーム 代表取締役社長

権田 修一 プロサッカー選手(ヴィッセル神戸)、Team DMHC アンバサダー

大須賀 由香 せたがやハウス家族会

加藤 亜里沙 せたがやハウス家族会

村木 晴子 せたがやハウス家族会

吉野 やよい せたがやハウス家族会

塩田 勝久 せたがやハウスボランティア

秋田 由紀子 せたがやハウスボランティア

畠 通子 せたがやハウスボランティア

中西 博 せたがやハウスボランティア

大野 一美 せたがやハウス ハウスマネージャー

寄付金募集要項

名称：せたがやハウス25周年募金委員会

寄付を必要とする理由

「せたがやハウス」は2001年、日本で最初のハウスとして誕生し、ご家族を支える“第二のわが家”として歴史を重ね、25年を迎えようとしております。

しかし建物や設備の老朽化が進み、また満室のためにご利用をお断りせざるを得ない状況が続いています。

そこで「せたがやハウス」では、大規模修繕工事を行うとともに、3室の増室とユニバーサルルームの設置、夜間も安心できるエントランスまわりの整備、そしてご家族に毎日食事を提供するため専用キッチン等の設備導入を含む環境整備を行い、より多くのご家族に安心・安全・快適な滞在を届けることが計画されています。

私共は、この計画の実現に向け委員会を立ち上げ募金活動を展開いたします。

この先もハウスを必要とするご家族のために、皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

寄付用途

① 増室とユニバーサルルーム設置 ② 中庭、エントランスの整備 ③ 毎日食事を提供するための環境整備

目標金額：5,000万円

募集期間：2025年10月～2026年8月（予定）

寄付の方法

クレジットカードの場合



※ 上記の二次元コードよりお手続きをお願いいたします。

銀行振込の場合



口座名義：

公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン
三井住友銀行 麻町支店 普通預金 8802222

※ お振込み後、上記の二次元コードより寄付情報のご登録をお願いいたします。

メール・FAXでの登録をご希望の方は、本ページ下部の「お問い合わせ先・還付先」までご連絡ください。

- パソコンよりご覧いただく際はこちらのURLから▶ <https://note.dmhcj.or.jp/>
- 個人10万円以上、法人20万円以上の寄付でご希望により感謝の樹へのご芳名プレートの掲載をいたします。

税制上の優遇措置について（寄附控除）

当財団への寄附は、個人・法人ともに税制上の優遇措置を受けることができます。

- 個人の方：所得税の控除が受けられます（以下のいずれかを選択）

所得控除：[寄附額-2,000円] × 所得税率 税額控除：[寄附額-2,000円] × 40% ※控除上限あり

また、以下の地域にお住まいの方は住民税の控除も適用されます。

東京都、宮城県、埼玉県、大阪府、福岡県、札幌市、仙台市、さいたま市、府中市、名古屋市、摂津市、神戸市、新潟市

- 法人の方：当財団は公益法人として認定されており、寄附金は通常の損金算入枠とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で損金算入が可能です。

※ 控除の内容や申告方法は、所得や資本金等により異なります。詳細は、お近くの税務署または税理士にご相談ください。

お問い合わせ先・還付先 ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや

〒157-0074 東京都世田谷区大蔵2-10-10（改修中）
TEL:03-5494-5534 (9:00-18:00) FAX:03-6911-6198
e-mail: setagaya.house@mail.dmhcj.or.jp



この用紙は、FSC®認証材および管理原材料から作られています。

Printed in Japan